

平成 19(2007)年度専修大学経営研究所実態調査報告

中国江蘇省鎮江市経済視察および江蘇大学(鎮江市)と復旦大学(上海)訪問

坂 口 幸 雄

平成 19 年度の専修大学経営研究所実態調査は、主として、中国江蘇省鎮江市にて行われた。調査期間は、平成 19 年 9 月 5 日(水)から 8 日(土)であった。本調査の参加所員は、笠原伸一郎経営研究所所長、坂口幸雄経営研究所事務局長、(以下、五十音順に)池本正純経営学部教授、魚田勝臣経営学部教授、岡田和秀経営学部教授、梶原勝美商学部教授、加藤茂夫経営学部教授、高澤十四久経営学部教授、田口冬樹経営学部教授、山崎秀彦経営学部教授、李建平経営学部准教授の 11 名であった。主たる調査目的は、江蘇省における経済発展と民営企業の役割と貢献であった。それと同時に、江蘇大学と復旦大学を訪問し、経済発展と企業誘致と支援における大学の役割を視察することであった。

鎮江市は上海市から車でおよそ 3 時間の距離にある。日本で学ぶ中国の歴史にも古い時代から登場する由緒ある地域である。現在、中国の経済開発重点地域の 1 つとして、鎮江新区を中心に鎮江市経済発展政策が推進されている。鎮江市政府の説明によれば、工程機械、船舶と船用設備、電子機器、自動車部品の 4 つの産業を重点産業としている。同政府の優遇税制(2007 年末まで)や、投資優遇政策および資本調達支援、そして、事業紹介機関の存在により、これらの産業に属する日米欧諸国の企業がこの地域へ次々と参入している。また、職業訓練学校の充実とその卒業生の積極的採用により、特に農村労働力の転換を促している。外資系企業は同政府による政策の下で中国国営企業と共に同地域の経済発展に貢献している。

鎮江市調査では、国営企業と米国資本 100% 企業、及び日系企業の工場見学と、鎮江市政府市長補佐や鎮江市潤州区副区長、鎮江経済開発担当者や経済貿

易担当者から、鎮江市の産業政策や投資誘致政策を中心に説明を受け、質疑応答のやり取りを交わした。工場見学は日程上、短時間に3社行うものであったが、調査に参加した所員からは、1社のみのお見学よりも多くの示唆を得ることができたという感想が多く得られた。詳細は参加した各所員の報告あるいは研究論文にて反映されるだろうが、中国国営、米国資本、日本資本による各経営の姿勢の違いが工場において見られた。政府官僚との説明会の後の質疑応答もこの実態調査に基いて各所員から行われた。ただし、今回は短時間の実態調査と討論会であるため、今回の実態調査は中国経済発展と企業経営を考えるきっかけにすぎない。今後は、より深い関心と考察、そして交流が行われ、中国の経済発展と企業経営のあり方、そして、日本企業への示唆を与えていくことが望まれるだろう。

本実態調査では、大学が地域経済の発展にどのように寄与しているかを知るために、江蘇大学を訪れ、同大学工商管理学院と財経学院の教授陣と会話し、鎮江市あるいは江蘇省の経済発展における大学の役割を題目の中心としてヒアリングを行った。同大学は、農業や建築、機械、工学などの理工学系学問分野や医学分野において中国経済や社会の発展に寄与する研究をしているだけでなく、地域の企業経営者に対する経営能力向上のためのワークショップ型の集中講座の展開や博士課程教育も含めた事業経営を行う上での必要な専門知識の習得を支援する経営教育を行っている。

また、実態調査最終日には、上海にある復旦大学の訪問および見学を行った。同大学には日本研究センターがある。同センターは、案内パンフレットによれば、1990年7月に設立され、「日中関係をメインに、経済を重点とし、日本の政治、経済と社会、文化の総合的な研究と交流を行いながら、東アジアに対する研究と交流をも展開すること」を趣旨としている。同センターの見学は、2005年に専修大学大学院経営学研究科にて博士号を取得し、現在、同センターにて従事している張浩川副教授の厚意により達成された。

今回の実態調査では途中、鎮江市の史跡や上海市内の市街を見学する機会もあった。今回の実態調査の趣旨で言えば、こうした史跡や市街見学は、都市経

済と企業のあり方、歴史上の人物に見る進取の精神（アントルプレナーシップ）の発見等に大きな刺激となった。

最後に、本調査は、専修大学経営学部李建平准教授と、鎮江市外事執務室秘書長郭桂鳳氏と同執務室張旭佛氏の準備と現場での日本語での引率や調整のおかげで無事遂行することができた。ここに、特に、この三氏に調査団一同感謝して調査報告を締めくりたい。

付記 1：本調査の日程をここで示す。

9月5日

12時30分ごろ、上海国際空港到着。専用貸バスにて鎮江市へ向けて国道と高速道路利用して移動。17時30分ごろ、鎮江市内宿泊地碧榆園（Biyuyuan Hotel）に到着。18時、鎮江国際飯店にて市政府市長補佐許氏と面会。18時30分、市政府市長補佐らと共に懇親会（21：00まで）。

9月6日

8時、鎮江市潤州区人民政府副区長劉氏，對外貿易經濟合作局局長孫氏，招商局副局長鄧氏とともに朝食会。9時ごろ、天安電器電信有限公司（電信会社）工場見学。9時45分、江蘇柳工機械有限公司（建築機械製造会社）工場見学。10時2分、懷特驅動有限公司（建築機械製造会社（American Piledriving Equipment Inc.））工場見学，11時ごろ碧榆園飯店にて潤州区副区長を交えて潤州区經濟開發および投資説明会。12時，同副区長と昼食会。13時から13時30分まで休憩。14時，鎮江市潤州区投資説明会（鎮江新区鎮江經濟開發区管理委員会副主任沈氏と鎮江新区招商二局副局長基氏）。15時15分，KYB（カヤバ工業）株式会社工場見学。15時45分，江蘇大学訪問。18時35分，潤州区区長庄氏らと共に懇親会。

9月7日

9時30分，鎮江国際飯店で鎮江市民營經濟發展座談会（鎮江市外事執務室副主任黃氏，鎮江市經濟貿易委員會周氏，劉氏，對外貿易經濟合作局程氏）（11：45まで）。12時10分，昼食（鎮江国際飯店）。13時，鎮江市および揚州市市街調査。

17時18分、高速電車にて鎮江市から上海へ移動。18時40分、上海到着。19時30分ごろ上海宝隆飯店 (Shanghai Baolong Hotel) にて、復旦大学日本研究センター張浩川副教授と懇親会 (21:00 ごろまで)。

9月8日

9時15分ごろ、復旦大学日本研究センター訪問 (10:30 ごろまで)。11時、上海市内調査。17時、上海出発。20時56分、成田到着。21時25分ごろ解散。

付記2：本調査団の訪問の様子が「鎮江外事」のホームページにて紹介されている (2007年9月12日時点)。

(URLは、<http://www.zjfao.gov.cn/wz1.asp?id=2054>)